



東京工芸大学・風工学研究拠点・研究集会（2022年2月15日）のご案内

## 緑ヶ丘集合住宅の通風性能評価に関する研究集会

2050年カーボンニュートラルを達成するために改正された地球温暖化対策計画では、建築と関わりが深い家庭部門、業務その他部門はそれぞれ2013年度のCO<sub>2</sub>排出量に対して2030年度の排出量を66%、51%削減する必要があると定められ、住宅などにおける自然エネルギーを有効活用する必要性は高まっています。また、昨今流行しているCOVID-19の感染防止策の一つに、換気に大きな注目が集まっています。現在の建物、室形状のままでも換気量の確保をすることが室内での感染予防の手段の一つです。特に、自然換気を用いる際は、外部風が小さい、開口が少ない、一面にしか開口がない、など様々な理由で十分な換気量を確保することが難しく、その解決手法としてウインドキャッチャーの活用や窓開けの組み合わせなどの工夫が必要であると考えられます。さらに、まん延防止等重点措置の要請やリモートワークの普及によって自宅での生活時間が多くなっていることによって、住まいの窓開け換気による感染防止対策のほかに、窓開けに伴う近隣とのプライバシーの確保という観点も重要となっています。そこで本研究集会ではウインドキャッチャー及びバルコニーフェンスが集合住宅の通風性能に及ぼす影響を把握するとともに、今後取り組むべき課題を確認することを目的として、研究集会を開催することといたしました。今後、様々な研究についての最新の研究成果についても情報を共有し、様々な視点から通風のさらなる有効利用について検討を進めたいと考えます。一連のテーマに関心をお持ちの皆様にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。ご案内申し上げます。

と き： 2022年2月15日（火）10:00~

ところ： オンライン(zoom)開催

<https://us06web.zoom.us/j/8785448946?pwd=Q0N3M0ZDVCSvRHkram5zUUxVUVFZQT09>

問合先： 東京工芸大学 工学部建築学科 教授 水谷 国男

電話：046-242-9923 E-mail： [mizutani@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:mizutani@arch.t-kougei.ac.jp)

東京工芸大学風工学研究拠点 研究集会

# 緑ヶ丘集合住宅の通風性能評価に関する研究 プログラム

---

10:00-10:05

開会挨拶, 趣旨説明

倉淵 隆 (東京理科大学 教授)

---

10:05-10:20

実測及び CFD に基づくウインドキャッチャーによる通風性能改善に関する研究

宅和 満 (東京理科大学)

---

10:20-10:35

実測値を用いた領域分割法による通風室内気流の予測に関する研究

斉藤 実咲 (東京理科大学)

---

10:35-10:50

ウインドキャッチャー及びバルコニーシェードを考慮した集合住宅の通風換気性能に関する研究

土橋 昌晃 (東京理科大学)

---

10:50-11:05

模型実験による風向別窓換気風量測定方法の検討

松井 俊樹, 須釜 瑞樹 (東京工芸大学)

---

11:05-11:20

単一方位の窓を開けたときの風向変動による換気風量に関する実測と模型実験

森口 拓生 (東京工芸大学)

---

11:20-11:40

討論及びまとめ

---